

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日中を通して迷った時や支援方法に問題がある時等、その都度理念に立ち返る習慣を身につけたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	理念がご家族に理解していただけるように入居時や家族会の時に説明したい。また来所者にも知っていただけるよう掲示する等を検討したい。また以前よりホーム便りについて検討している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	散歩等で近所に出掛ける機会を増やして、もう少し身近に感じていただけるように努力したい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現時点では開所2年程なので、ホーム内の整備に取り組む事で精一杯である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を読み、それについて話し合う機会を持った。今回も項目一つ一つについて話し合い、現在の介護について見直す機会とした。	○	これから改善に向けて取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いただいた意見により改善できる点(ハード面)は早期に実施した。毎回色々な立場から意見をいただき、会議で出た意見を報告書として回覧している。そして朝礼等で話し合い、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居について相談を受けた機会に話をする。また地域での研修の場を情報交換の場として活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今は対象者となる方がいらっしゃらないので、一部の職員しか理解できていない。	○	これから全ての職員が理解できるよう学ぶ機会を持つ。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については報道等で知れたケースを会議等で取り上げ、話し合う機会を持っている。	○	改めて勉強する機会を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書に沿って詳しく説明を行うと共に、契約書を熟読してサインしていただけるよう、時間的にも猶予している。不安な事項は繰り返し説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者には常に意見をいただけるよう話やすい場面作りをしている。また年2回の家族会にはご意見がいただけるよう時間を設けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「一日の様子」を毎月ご家族にお送りしている。健康状態については受診結果を報告、体調の変化・転倒等についても必ず連絡を入れている。金銭出納状況についても個別に郵送にて報告を行っている。面会時には最近の様子について話をさせていただいたり、掲示している写真等で説明を行ったりしている。職員の異動は年2回の家族会で報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会で意見を伺ったり、その後個別に話を伺う機会も設けている。また運営推進会議に参加して下った時にも意見をいただき、これらの意見は書面に残し運営改善に反映している。相談・苦情の窓口は入居時に重要事項説明書で説明すると共に玄関にも掲示している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの提案等を積極的に受け入れて、運営に取り入れている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯の職員確保ができるよう相談している。その為ユニットで30分、勤務時間の差を設けている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員交替によってなじみの関係が断ち切れるのは残念である。しかしやむを得ない場合がほとんどで、知らぬ間に交替するのではなく離職・入職いずれの場合にもご利用者に挨拶を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム外研修は開所後2年程度の為、管理者や主任の参加が多かった。ホーム内研修は、複雑な業務の中で中々進まない状況で研修と称して行うものは少なく、月一度の全体会議の時にリスクマネジメント等の研修を行った。</p>	○	<p>職員の経験・知識に応じ、県主催の研修から積極的に参加を勧めていきたい。ホーム内の研修も勧めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の同業者と管理者間で交流する機会はあるが、職員間では昨年近くのグループホームの見学に行き来したが、それ以外にはない。</p>	○	<p>今後近隣のグループホームと交流が持てるように働きかけたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が働きやすい環境となるように、勤務作成時にはなるべく希望を取り入れ余暇が充実するよう願っている。しかし、休憩室がない為日勤の職務中に十分休めていない状況である。</p>	○	<p>職務中の休息について改善を図りたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の実績や能力に応じて責任の範囲や仕事の依頼を決めるように心掛けている。また研修の受講を勧めている。</p>	○	<p>研修の受講や経験・実績・能力を反映した職員体制が作れるよう、会社内で話し合いたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご自宅を訪問した時や日中のみの利用時に話を伺う。利用時にはできるだけ関わり、言葉を引き出す努力をしている。また地域が同じ職員が話し掛け不安を取り除いている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があつてから入居まで何度か話を伺っている。ご家族が今一番何に困っているのか、どのようなことを望まれているのかを遠慮なく話していただけるよう努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○	ほとんどの方が入居を希望されて来られるが、可能であれば詳しく話を伺い色々な情報が提供できるよう、日頃から他事業者と連絡を取り合う体制を整えたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	納得をして入居をされた方でも、認知症の進行によりその事を忘れ落ち着かない時がある。そのようなご利用者にどのように納得していただくかが課題である。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○	できればご家族と一緒に食事をしたりレクを行ったり、気候が良くなれば散歩をしたりする時間を持ちたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○	ご利用者の好きな場所・思い出の場所に一緒に出掛けられるよう、また地域の行事・お祭り等に参加する等社会参加の機会も持ちたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一人退居された方がいる。施設に入所された為しばらくは様子伺いを立てていたが、それ以後の関係は途絶えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に要望等を伺うも「元気で」「健康で」等大まかなことしか出てこない。その為日々の生活の中の会話や態度により何をしたいのかを把握しサービス担当者会議等で話し合う。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント時にご家族やご本人より話を伺う。しかし初回では踏み込んだ話ができないので、その後の面会等で少しずつ話を伺うようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の心身の状態から「できない」と勝手に判断せず、色々なことに参加していただく機会を作るようにしている。何事も行う前から判断せず「やってみる」事が大切だとスタッフ間で話し合っている。	○ 定期的なサービス担当者会議でできる事のチェックを行う。そして気づいた事を話し合い、その方のできる力が十分に発揮できるよう、今後も支援していきたい。またセンター方式をもっと活用する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者に要望等をお聞きしても中々答えが返ってこない。普段の会話や態度から推測している。またご家族には現在会議に参加していただく事はできていないが、面会時や電話、家族会で要望等をお聞きしている。それらを踏まえサービス担当者会議で話し合い介護計画に反映させている。	○ ご家族と大分馴染みの関係を築けてきたかと思うも腰を据えてゆっくりと話し合う機会が持てていない為、心の奥にあるものを引き出せていないのでは。もう少し密になれるよう働きかけたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在3ヶ月毎に見直しを行っているが、状態の変化に応じては作成できていない。ご家族には状態の変化とそれに合わせた介護方法を電話にて相談し計画しているものの、計画書が追いつかない状況である。	○ 状態の変化に応じて計画書を作成していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	ケアプランからケア目標を立てその日一日それができたかどうか記録している。ただ記録するのではなく、その時の様子や言葉を残すことで他のスタッフにも知ってもらえるよう、また次のケアに活かせるようにしている。月末には評価をしてケアプラン作成時に活かしている。	○	記録はまだ十分でなく、スタッフ個々によって書く力に差があるので、勉強会等を実施したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	外出や外泊時の送迎、入院中のご家族のお見舞いへの援助等、柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	散髪や演芸ボランティアの訪問等はあるものの、ご利用者の意向や要望に添ったものではなく、まだ地域資源を活用するまでに至っていないのが現状である。	○	ご利用者が参加型のボランティアを探している(家族会でご家族に呼びかけている)。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	他サービスは利用していない。	○	地域にどのようなサービスがあるか把握できていない為それらを知ることから始めたい。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	運営推進会議や地域の研修等で話しを伺う程度である。		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	なじみの継続としてかかりつけ医の受診を勧めている。三好郡内であれば職員が行くことも多く、相談しやすい医師との関係作りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	基本的にはかかりつけ医により認知症の治療が行われている。進行により更なる治療が必要となる場合、認知症外来が三好郡内にはない為近隣の精神病院の医師に相談している。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	小さい事でも看護師に相談をしてその都度指示をあおいでいる。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	まだ該当者がいない。	○ 通院時、主治医との情報交換に努める等、日頃から良好な関係を築いておく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	今は該当者がいないので現実味を帯びた話し合いはできていない。	○ ご家族とゆっくりと話し合う機会を持ち、早期より対応について確認・共有しておきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	まだ該当者がいない。	○ これから体制作りに取り組むたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居の際はご家族や担当ケアマネージャーから詳しく話を伺い、主治医からも指示をいただく。そしてダメージを防ぐ為何日間か日中だけ利用していただき、環境や人に慣れていただいでから入居をしている。他施設への入居がお一人あったが、ご利用者については十分な情報提供を行っている。	○ 関係施設とは密に連絡を取り合いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人的な話の時は事務所や居室で伺う。また排泄や入浴の声掛けも耳元で行うように心掛けてはいるが、実際は周りを見ずに声を掛けてしまっている。	○ 職員一人ひとりが自覚して取り組めるよう、定期的に勉強会等で話し合う機会をもつ。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉を引き出せるよう二者択一のような声掛けをしたり、例を出して自分に置き換えていただいたりしている。最終はご利用者に決めていただき決して無理強いはしない。自分のできることへの配慮を忘れないよう心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごす人、居間で過ごす人、それぞれ自由に過ごしていただいております。行事やレクを行う時もご利用者の判断にお任せしている。しかしどのように過ごしたいか等とご希望を伺うような状況を提供できていない。	○ 食事「食べたい時に食べる」のが良いのかもしれないが、みんなが揃って食事するのが家族だと思い、みんなが揃うまで待っていただいている。今ではそれがあたりまえのようになっている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院へ連れて行って下さるご家族もあるが、ご利用者・ご家族の要望でほとんどの方がホームのボランティアを利用している。染髪はご利用者やご家族の要望でスタッフがやっているが、いきつきの美容院に行ければと思う。身だしなみやおしゃれについては、一緒に着る服を選んだりする程度でまだ十分な支援が行えていない。	○ ホームでできる事を検討したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者のできる事によって役割を分け一緒に行っている。男性でもテーブル拭きを手伝って下さる等、みんながそれぞれの場所で活躍されている。食事をみんな揃っていただく事で互いに思いやる気持ち生まれ、家族のように過ごしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームは基本的に禁煙である為、煙草を吸われる方とは相談をして喫煙場所・時間を決めている。おやつの中には好みに合わせた飲み物を出している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	病気等で一時的にオムツを使用してもその後そのままの状態にしまわぬよう、状態を見て元の排泄パターンに戻している。オムツや尿取りパットに頼らないよう、その方の排泄パターンを把握してトイレでの時間排泄も行っている。排便は排泄チェックを見て、またご本人に確認をして水分を摂ったり薬の服用をしている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は行事等がない限りほとんどの日が午後からの実施である。入浴拒否をされる方には時間を変更して声を掛けたりするが、無理強いはいしない。また通院や外出の前日には入浴の声掛けを行っている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冬の間はこたつで過ごされそこでウトウトと居眠りをされたり、ソファで休まれている。ご利用者の生活習慣によりベットを使用されたり布団で眠られたりしている。就寝時間もそれぞれお好きな時間である。	
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	力量によって分担を決め皆で一緒に家事を行ったり、習い事をしていただ方にはそれを皆さんに披露・指導をしていただいたりしている。その間「助かります」「ありがとうございます」と感謝の言葉を掛けている。また買い物に同行していただいたり、庭等でお茶をいただいたりして気分転換を図っている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度の金銭をお持ちの方のご家族にはご理解いただいているが、職員間ではやはり紛失を恐れているので、なるべくなら手持ちの金銭がないようお願いしているのが現状である。管理ができるご利用者には買い物に出掛けた際、ご自分で支払いをしていただいている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい時には散歩に出掛けたり、歩行能力の低下した方は庭等にお誘いしている。時々買い物等にも一緒に出掛けるも回数は少ない。ご利用者によって、ご家族が外食やお祭り等に連れ出して下さっている。	○ 気候が良くなったら地域の名所や散歩にも出掛けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中でご利用者の行きたい場所・懐かしい場所等はお聞きするものの、外出はほとんどできていない。	○ 誕生日のお祝いを兼ねて普段行くことのない所への外出や、ご利用者が望む場所への外出を計画中である。これにより地域の方との交流も図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には、ご自分で電話を掛けるのは困難なので掛けた後変わって話をさせていただいている。文字を書くのは苦手な方が多く年賀状を書かれた方はおられるが、手紙のやり取りは行えていない。	○	職員が月初めにお出ししている「一日のご様子」にご利用者にも一言書いていただいていたかどうかと考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はお好きな時間に行っていただいている。和室を使っていたり、居室でお話される場合は椅子等の用意や室温の調節に気をつけたりして、ゆっくりと過ごさせてもらえるよう気をつけている。またお茶も忘れずにお出ししている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解しているが、具体的行為については認識に差がある。また身体拘束倫理規定はあるが周知できていない。実際現場に立つと言葉による拘束が多々ある。	○	身体拘束倫理規定については全体会議で周知したい。そして身体拘束についての勉強会を行いたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉に施錠はしているが、玄関は開放して自由に出入りできるようにしている。2階は階段やエレベーター等がある為危険が多く、戸口に施錠をしている。閉塞感は感じられるが、ご利用者の状態から現在は開放できずにいる。居室の鍵はご利用者が必要な時にご自分で掛けている。	○	施錠が当たり前のようになっているが、ただ鍵を掛けるのではなくご利用者や面会者の立場になって考えられるように、施錠をする事について話し合いたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は食事やお茶の時間に声を掛けると全員が揃うので、この時に状態の確認を行う。自室で過ごされている方には時々訪室して変わりはないか声を掛ける。夜間は2時間毎の巡視を行い、歩行が不安定な方がトイレ等に移動される場合は側で見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	月に一度危険物チェックを行い、どのような物をお持ちかを把握して状態に合わせた対応を行っている。洗剤等は異食行為があるので鍵のかかった倉庫に保管。刃物も危険な為保管はしているが、必要時には使用していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを繰り返し必読している。ヒヤリハット体験があった場合には気づき報告書を書いて、全体会議で再発防止について話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>マニュアルもあり理解はしているものの、訓練は定期的に行えておらず、実際行えるかと言われれば一部の職員を除き困難である。</p>	○	訓練が定期的に行えるよう計画をする。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災時の避難訓練は夜間帯を想定して行ったが、実際には行っていない為避難時間や状況に大きく違いがあると思う。また近隣者には協力をいただける様働き掛けている。</p>	○	訓練の回数を増やし、一人ひとりが安全に非難できる方法を身につけておく。火災以外の天災時の取り決めを早急に整備したい。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>気づいたことをご家族に相談をし、対応策について要望等をお聞きする。それを踏まえて職員間で相談。方法が決まれば再び連絡をしてご理解をいただく。転倒の危険性がある方には寝具の変更や敷物を用意していただくよう話をした。</p>	○	面会時以外にもご家族との会話の時間をとるようにしたい。
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>看護師に連絡をしてその日の出勤職員で対応について話し合う。夜勤者には引き継ぎの際に報告をして、欠勤者にもきちんと伝わるよう介護記録と日誌連絡事項の欄両方に記録している。</p>	○	ご利用者の訴えがない為発熱等の異変に気づくのが遅れる。早めの対応ができるよう、個々の日頃の状態に気をつける必要がある。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>目的や副作用については十分とはいえない。しかし状態に変化のあった場合には服用している薬の確認を行ったり、医師や看護師に相談をして調整をしている。服薬に変更等があった場合には連絡事項に記録して申し送る。また飲み忘れや誤薬を予防するために薬箱を作っている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>以前よりカマグを服用している方は継続して服用されているが、排便状態により調整をしている。繊維の多い食物を摂っていただいたり、便秘を訴える方には水分を摂っていただく。毎日の体操や家事等で身体を動かしている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>就寝前には必ず行っている(3回/週ポリデント)が、その他は声掛けを行うもする方しない方様々である。できる方にはご自分でブラッシングをしていただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ソフトの導入によりバランスはとれている。習慣により肉を食べられない方には魚等を出してバランスが崩れないようにしている。水分を嫌う方が多いので食事・おやつ時には水分が大事なことを説明して必ず摂っていただくよう声掛けを行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。インフルエンザワクチン接種は、医師に止められた方以外は接種でき、職員もほぼ全員が接種を行った。受診時にはマスクを使用し感染予防に努めている。ノロウイルスも保健所の講習会に出席し予防と対応について話し合い、万一発生した場合の処理バケツを準備し感染拡大防止対策をしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	「調理器具衛生管理」「正しい手洗いの仕方」を調理場の目の届きやすい所に貼っている。生で食するものはナイロン手袋を使用する等調理者からの食中毒の発生防止に努め、調理器具はハイター消毒や食器乾燥機を使用している。食品については正しい管理を行っており、一度解凍した物は再冷凍を禁止し、安全な食材提供に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	以前門扉が閉鎖的との指摘があり、花を植える等して柔らかい雰囲気を出している。また庭に衣類や布団を干す事が家庭的な雰囲気を出していると思う。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には花や手作りの人形・ご利用者の写真や作品を飾っている。家庭的で落ち着いた雰囲気となるよう不要な物は設置せず、自由に過ごせていただけるようにしている。季節の花や壁面の飾り、また窓からの風景で季節を感じていただけていると思う。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室のこたつやソファ、また事務所や食堂も利用されその方のお好きな場所で思い思いに過ごされている。ベランダに出て一人風景を眺める方もいらっしゃる。ご利用者のほとんどの方が居室より居間等で過ごす時間が長い。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具やご家族が購入して下さった物が居室にある。畳がお好きな方は畳を敷き、お仏壇を祭ったり写真を飾ったりして馴染み物が側にある。しかし認知症の進行により室内に物を置くと危険な方もおり、その方の居室は閑散としている。	○	ご本人はもちろんご家族や面会の方が来られても、居心地の良い居室となるよう工夫したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝空気の入替えを行っている。空調は嫌いな方もおりその方の要望に応じて行い、巡視時等に調整を行っている。冬季は暖房により乾燥しやすい濡れたタオル等を室内に干す等して気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態によってその方にあった寝具を使用し歩行が不安定な方は夜間ポータブルトイレを使用し、転倒を予防している。	○	緊急時の非難方法に問題がある。安全に非難できる環境をつくる事が大切だと思う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1階と2階を区別する為、壁紙やソファ・トイレの便器等の色を変えている。居室には表札を掛けて、ご利用者はその名前を確認して中に入って行かれる。また居室の扉や照明等を異なる物としている。	○	今後認知症が進行すると課題が増えてくると思う。物の使用方法がわからなくなったり異食行為が出てきたりして、ご本人はもちろんの事その周りの方にも混乱が生じるであろう。その都度スタッフで話し合い、暮らしやすい環境を提供したいと思う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花木への水やりや草取りを行ったり、洗濯物や布団を干す。また散歩や日向ぼっこ・作業等、庭は色々な事に使用されている。屋外に出るのが苦手な方もベランダには出られ、外の風景を楽しまれている。庭に出ると畑に出ている近所の方との会話も生まれる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームはハード面では他の施設にかなわないが、家庭的な雰囲気を大切にしている。何をしても大々的にはできないが、小さいながらもご利用者とご家族、そして職員が笑顔で過ごせるホームである。食事はみんなが揃って「いただきます」を言い、みんなが揃って「ごちそうさま」を言う。